◆TEKU・TEKU 2019★本郷ミニ企画（活動記録）◆

企　画■歴史的建物を見て、コンサートを聴く（本郷中央会堂と本郷求道会館）

日　時■2019年12月1日（日）13：00～17：30

コース■本郷三丁目・かねやす～本郷中央会堂＜内部見学＞～本郷弓町教会～炭団坂～樋口一葉旧居跡～菊坂下・伊勢屋質店～鳳明館本館～森川町六叉路～本郷求道会館／マタイ受難曲演奏会（東京フルトヴェングラー研究会管弦楽団＋合唱団）～東京大学キャンパス（正門、法文一号館、安田講堂、弥生門）

参加者■◎大竹　亮、竹下香里、橋本めぐみ（以上3名、敬称略　◎コーディネイター）

企画主旨■本郷一帯には、複雑な自然地形という基層の上に、江戸明治以来の歴史という蓄積があり、東京大学の存在とともに今も歴史的建物が多く残り、文化的界隈性が色濃い地域となっています。今回は、西洋式建築による仏教会堂というユニークな本郷求道会館（武田五一設計）にて、西洋教会音楽の最高傑作であるバッハ作曲マタイ受難曲を日本語で上演するという稀有なコンサートが催されるので、それを拝聴するとともに、あわせて本郷中央会堂（ヴォーリズ設計）や東京大学法文一号館・安田講堂（内田祥三設計）などを巡ります。西洋文化文明の日本における受容と、それが作り出す都市や建築空間の独自性について、実体験しつつ考えてみましょう。

＜参加者の意見・評価＞

1◆本郷のまち全体（今回歩いた範囲）について

評価A●本郷中央会堂も求道会館も、宗教建築ということもあるかもしれないが、それぞれが造られたときの思想や造りが、その土地でうまく引き継がれていることが感じられた。

評価A●本郷三丁目の交差点には「本郷もかねやすまでは江戸の内」という川柳の記載されている7階建のビルがあり、ここまでが江戸という境界を通り、向かい側にある和菓子店三原堂（藤むら？）や土蔵造りや板張りの住居、町家など江戸の風情を随所に残している魅力的な街並みでした。

評価A●本郷は歩くたびに新たな発見がある。このまちの個性は、地形や歴史の影響もあるが、東京大学の存在が大きいことに気が付いた。旧本郷館だけでなく、中央会堂や求道会館の独自性も帝大あってのものなのだ。

2◆本郷中央会堂（1929年）について

評価A●関東大震災で倒壊後に再建され、東京大空襲の際には本富士警察が教会内に設置された歴史もあり、礼拝の場所としてだけではなく、学生など若い人にキリスト教を広く親しまれるように、十字架が強調されるような宗教色を前面に出した造りとせず、講堂のような造りとなっていることが興味深い。また、パイプオルガンを設置するため新たに造作された部分も、違和感なく調和の取れた美を醸し出しているように感じた。

評価A●現代の使い方にあわせて改修・修復しながら、大切に使われているのが建物自体からも、説明いただいた方からも、伝わってきた。パイプオルガンが見事で、もっと広く公開してもいいのではないかと思ったが、管理側からすると妥当な範囲なのかもしれない。学生に教えを説くことを主軸に置いた演壇、ろうそくをモチーフにしたデザインがあしらわれていた点など、印象的だった。

評価A●春日通りに面して美しいファサードを向け、さかえビルと風格ある町並みを作っている。久しぶりに内部見学し、公会堂風な独特の祭壇や座席配置は講演主体に考えてのことと理解できた。都市計画道路にかかっているのに、英国から立派なパイプオルガンを移設再建していたのには驚いた。何とか残ってほしいもの。

本郷中央会堂／春日通り側の壮麗なファサード

再建されたパイプオルガンと三方を囲む2階席

3◆菊坂下・樋口一葉旧居界隈について

評価A●教えられないとわからない場所だったが、だからこそ残っているのだろう。路地奥の建物には思ったよりボリュームがあったため、見上げると迫力があったが、細工などは細やかで繊細な一面もあった。井戸やその周りに敷いた石なども含めて、佇まい、雰囲気が良かった。

評価A●案内されないと通り過ぎてしまうような細い路地を曲がって入っていくと、突然あらわれる時代が逆行したかのような懐かしい板張りの居宅や近くの旅館鳳明といい、大変魅力的な界隈でした。
評価A●ゆるやかに曲がる菊坂とそこに並ぶ商家や土蔵、一葉旧居界隈の路地奥にひっそり残る井戸、思いがけず現れる急坂や狭い階段、由緒ありそうに佇む木造旅館群など、いつまでも歩き回りたくなる一帯である。

４◆本郷求道会館（1915年）について

評価A●西洋教会風の力強く美しい外観と木造寺院風の質素な内部空間が、対比的だが不思議に調和している。
評価A●教会的な造りである一方で、ステンドグラスの画が菩提樹だったり、高欄に卍がデザインとしてあしらわれていたりしたのが、仏教らしく面白いと思った。前方の厨子（六角堂？）前の演壇も、本郷中央会堂との共通していたのが、興味深かった。後から調べたら、ベンチは蓮の花がモチーフのデザインだったらしく、次回行く際はじっくり見たいと思った。
評価B●阿弥陀如来像が安置されている六角堂があるなど、社寺建築と教会建築に見られる側廊を配した和洋折衷的な建築物に面白さがあったと思います。

５◆求道会館でのマタイ受難曲コンサートについて

評価A●マタイ受難曲という人間の心の奥底を描く至高の音楽が、西洋建築の仏教会堂という環境の中で、西洋楽器の演奏と日本語の歌唱によって上演されるという試みは、芸術や宗教は文化や国境を越えるという真理を実感させた。プロ・アマ混成の演奏家や合唱団は、無心に一所懸命に音楽の本質に迫っていた。
評価A●浄土真宗という仏教の建造物で、キリスト教にかかわるテーマのコンサートが開催されること自体が斬新と思えるところに、歌詞も原語ではなく日本語で歌唱するという珍しい試みも加味され、心にストレートに曲の内容が伝わるコンサートでした。
評価A●マタイ受難曲自体が初めてだったので楽しめたが、和訳だったのでよりわかりやすく楽しめた。求道会館という客席と演者が近い状況だったこともあり、とても迫力があり、感動した。

本郷求道会館／西洋建築様式による独特のファサード

仏教的モチーフによる演壇と三方を囲む2階席

６◆東京大学本郷キャンパスの夜景について

評価A●夕闇のキャンパスの中で、照らし出された連続アーチの回廊、まばゆいホールなどが実に美しかった。
評価B●柱とその上の柱頭飾り、アーチ状の幾重にも重なって、日の落ちた空間に映し出されて幻想的でした。
評価B●夜だからこそ浮かび上がるシルエットやパーツが幻想的できれいだった。ちょうどイチョウの紅葉が美しくライトアップされていたことも良かった。

７■今回巡った中で最も印象に残ったことは？

樋口一葉旧居宅界隈★道を曲がるとそこはタイムトリップしたかのような懐かしい板張り建築が出現する。東京の中心部でありながら、時代がそこだけ止まってしまったかのような空間。幼少の頃には、どこにでもあった空間が姿を消し、新しく新しく生まれ変っていく時代の変遷に思いを馳せています。
建築の持つ力★中央会堂のパイプオルガン再建、求道会館での受難曲日本語上演など、あの建築あってのこと。

８■今回の企画に対する感想など

●思いがけずヴォーリズの名前を伺い、本郷中央会堂と明治学院大学とのつながりを知り、面白く感じた。(H/M)
●もう少し見学時間に余裕があれば細かい部分も見学できたと思うので、少々残念ではありましたが、近隣にある文人たちの居宅もあわせて、次回に見学したいと思います。(T/K)
コーディネイターより●午後にコンサート、夜は忘年会という個人的な予定を一帯のまち歩きに仕立て上げたところ、３名の参加で新たな発見の数々があり、感謝します。これも本郷という街の持つ潜在力でしょうか。(R/0)